

# 校長室だより(No.43)

令和4年2月5日  
丹波市立黒井小学校長  
谷口 千尋

## 校内図工展・書写展（子どもたちの絵）

兵庫県にまん延防止等重点措置が適応されていましたが、感染対策を徹底することと、来校者と子どもたちの接触をしないことを徹底し、校内図工展・書写展を実施しました。

予定していた授業参観は、実施できませんでしたが、多くの保護者の皆さまに来校頂きました。絵画作品や工芸を熱心に見入られている様子を拝見し、子どもたちへの愛情の深さが伺えました。ご意見やご感想を是非学校までお寄せください。

さて、子どもたちの絵画(児童画)ですが、これを芸術作品のような対象としてみることもできますし、子どもたちの心のありよう(心理)を知るためのひとつの手がかりとして見ることもできます。学校としましては、教育の成果物、芸術作品として見る事が多く、その方が大切にされています。ただ子どもたちの絵は、独自の世界観をもっている場合が多く、これを大人の作品と同じように見てはならないものであるとも考えます。

美術教育では、教師は成長していく児童の要求に自己を同一化することが、優れた指導をしていくためには絶対に必要なことであるとしています。つまり、自己同一化とは、教師が一人ひとりの子どもたちの心の中に入り、子どもたちと一緒に作品を仕上げていることとすることです。大人である教師が大人考えのまま子どもたちの指導はできませんし、してはいけないと考えています。子どもたちの立場に立って、教師がその子どもの状況になりきり、いっしょに絵画の対象を見つめ表現活動をしていくことが大切であると言われていています。

また、絵を見る際にも、子どもたちの心(心理)を十分にとらえて見る事が大切です。

### 児童画の心理学的な見方について

1年生の子どもたちがよく学校より大きな人をかいたり、家よりも大きな昆虫をかいたりします。大人から見ると不自然な形です。しかし、私たちの目から見た大きさが、子どもたちの目(対象みる目)にとって正しいとは限りません。まだまだ未分化な発達段階にあるこの期の子どもたちにとっては、より興味や関心の高いものは大きく感じられます。たとえ遠くにあるものでも、子どもたちの心の中で大切な位置をしめているものは大きく表現されることが度々です。友だちの大きさと、その存在の大切さ等があらわされることもあります。

### 児童画の絵画としての見方について

ものの形や配色などにおいて何がどう描かれているかにはあまりこだわらず、画面をどのように処理しているかということを見て子どもたちの造形的な感覚の質を見ます。

### 学校での教育的な見方について

心理学的な見方と絵画としての見方の二つの見方を取り入れて、こんな作品の傾向が望ましいとした考えをもって、その方向に合うような角度から作品を見ていきます。図画工作科の目標に即して、造形的能力を培うという点からの見方で作品としての結果よりも制作過程の絵具や材料の取り扱い、理解・態度などの育成をより重視する見方です。

### 評価について

相対評価は、相対的に学年やクラスでの作品の完成度等を知り、個人の作品としての出来ばえを明らかにするとともに、一人ひとりの特性をつかんだり、今後の指導の手掛かりをさがしたりします。

絶対評価は、一人の児童について、これまでの作品と比べてどのような変化を見せているかをみます。多くは1年間(学年)を通して作品の傾向をみていきます。子どもの心理的成長を知るうえでも大変効果的です。